

1	(1) 5 0 8 5	(2) 3 2 7 6	(3) 3 8 8 0	(4) 3 3 5 9 6
	(5) 9000000	(6) 6.4	(7) 1 1.8	(8) $\frac{47}{73}$
	(9) ⑦ 1 (分)	(10) ⑧ 3 0 (秒)	(11) 5 1 7 8 (kg)	(12) 5 9 0 8 (m)
	(13) 9 1 2 (m)	(14) 6 3	((9)完答)	

2	(1) 4 5	(2) 2 5	(3) 2 2 5
---	---------	---------	-----------

3	(1) 9 人	(2) 2 0 人	(3) 2 7 人
---	---------	-----------	-----------

4	(1) 7 7 6	(2) 7 7 4	(3) 1 7 通り
---	-----------	-----------	------------

5	(1) 6 cm	(2) 1 0 枚	(3) 2 4 枚
---	----------	-----------	-----------

(配点) 各4点×25

1

(5)  $125 \times \boxed{32} \times 25 \times 9$   
 $= 125 \times \boxed{8 \times 4} \times 25 \times 9 = \underline{1000} \times \underline{100} \times 9$   
 $= \underline{900000}$

(7)  $23 - \boxed{\quad} + 4.9 = 16.1$   
 $23 - \boxed{\quad} = 16.1 - 4.9 = 11.2$   
 $\boxed{\quad} = 23 - 11.2 = \underline{11.8}$

(9)  $\frac{1}{4}$ は4つに分けた1つ分ということなので、 $\div 4$ 。  
 6分=360秒より、 $360 \div 4 = 90$ (秒)  $\rightarrow$  1分30秒

(10)  $5 \text{ t} + 234\text{kg} - 56000 \text{ g}$   
 $= 5000\text{kg} + 234\text{kg} - 56\text{kg} = \underline{5178}$ (kg)

(11)  $\boxed{\quad} \text{ m} - 1920\text{m} + 8 \text{ km} 16\text{m} = 12\text{km} 4 \text{ m}$   
 $\boxed{\quad} \text{ m} = 12004\text{m} - 8016\text{m} + 1920\text{m} = \underline{5908}$ (m)

(12) まわりに旗を立てるので、間の数=旗の数となる。  
 よって、 $12 \times 76 = \underline{912}$ (m)

(13) 9でわり切れる2けたの整数を順番に調べていく。  
 $18 \div 8 = 2$ あまり2... $\times$   $27 \div 8 = 3$ あまり3... $\times$   
 $36 \div 8 = 4$ あまり4... $\times$   $45 \div 8 = 5$ あまり5... $\times$   
 $54 \div 8 = 6$ あまり6... $\times$   $63 \div 8 = 7$ あまり7... $\times$   
 $72 \div 8 = 9$ ... $\times$   $81 \div 8 = 10$ あまり1... $\times$   
 $90 \div 8 = 11$ あまり2... $\times$   $99 \div 8 = 12$ あまり3... $\times$   
 よって63。

2

たてに表をみると、B組にはA組 $\times 3$ の数が、C組にはB組+1の数がなっている。

(1)  $15 \times 3 = \underline{45}$

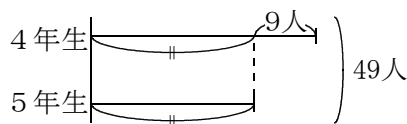
(2)  $(76 - 1) \div 3 = \underline{25}$

(3) 30番目のA組の数は、 $30 + 2 = 32$   
 B組は、 $32 \times 3 = 96$ で、C組は、 $96 + 1 = 97$   
 $32 + 96 + 97 = \underline{225}$

3

(1)  $63 \div 7 = \underline{9}$ (人)...4年生と5年生の差

(2)  $343 \div 7 = 49$ (人)...4年生と5年生の和  
 右の線分図より5年生の人数は、  
 $(49 - 9) \div 2 = \underline{20}$ (人)



(3)  $49 - 20 = 29$ (人)...4年生の人数  
 6年生の人数は20人より多く、29人より少ない。  
 よって、この子ども会の全体の人数は、  
 $49 + 20 = 69$ (人)より多く、 $49 + 29 = 78$ (人)より少ない。

また、3人ずつの班には分けられず、4人ずつの班には分けられたことから、全体の人数は3でわるとあまりがあり、4でわるとわり切れる数となる。4でわり切れる72と76だけ調べる。

$72 \div 3 = 24$  で条件にあわない。  
 $76 \div 3 = 25$ あまり1 で条件にあう。  
 よって6年生の人数は、 $76 - 49 = \underline{27}$ (人)

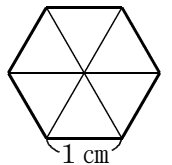
4

(1)(2) かける1けたの数が9のときは、  
 $87 \times 9 = 783$   $86 \times 9 = 774$  ...  
 かける1けたの数が8のときは、  
 $97 \times 8 = 776$   $96 \times 8 = 768$  ...  
 かける1けたの数が7のときは、  
 $98 \times 7 = 686$   $96 \times 7 = 672$  ...  
 よって、2番目に大きい答えは776。  
 3番目に大きい答えは774。

(3) かける1けたの数が9のとき、 $700 \div 9 = 77$ あまり7より、2けたの数として考えられるのは78と、80から87までの9通り。  
 かける1けたの数が8のとき、 $700 \div 8 = 87$ あまり4より、2けたの数として考えられるのは90から97までの8通り。  
 かける1けたの数を7以下にすると、答えが700を超えることはない。よって、 $9 + 8 = \underline{17}$ (通り)

5

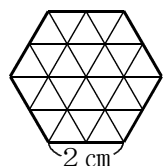
(1) 正三角形の辺どうしが、なるべくたくさんくっつくようなならべかたを考える。右の図のようにならべたとき、まわりの長さがもっとも短くなる。  
 $1 \times 6 = \underline{6}$ (cm)



(2) 使うタイルの枚数を少なくするには、辺どうしがなるべくくっつかないようにする。つまり、1辺どうしだけでつなげていけばよい。下の図はその例の一部で、最小の枚数の形はたくさんある。  
 $12 - 3 + 1 = \underline{10}$ (枚)



(3) タイルの枚数を多くするには、(1)のようにまとまった形を作るのがよい。 $12 \div 6 = 2$ より、ちょうど1辺の長さが(1)の2倍の形を作ることができて、下の図のようになる。  
 $(5 + 7) \times 2 = \underline{24}$ (枚)



配点：各4点 $\times 2 = 5$

1(9) 完答